

101213gen

仮題「サッカーW杯 2022 年大会招致をめぐる国際政治—なぜカタールが勝利したのか?—」
関連基礎資料の作成

○101002 産経「混戦に勝機 南米票が左右」

2018、22 年大会の開催地は 2 日、スイス・チューリヒで国際サッカー連盟(F I F A)理事会で一括決定。22 年大会の開催地にはオーストラリア、韓国、カタール、米国、日本が立候補。投票権を持つのは 22 人の F I F A 理事。過半数を獲得した国が開催地に決まる（過半数を獲得する候補地が決まるまで、最少得票地を振り落とす「五輪方式」。

理事の内訳はブラッター会長以外は大陸連盟別に、欧州 8 人、アジア 4 人、北中米・カリブ海、南米、アフリカ各 3 人。「F I F A が公表した調査報告書で、カタールは際立って低い評価にとどまっている」

日本の「切り札」：世界各地(400 カ所)での立体映像による試合上映(P V =パブリックビューイング)、50 カ国語対応の音声自動翻訳機を備えた情報端末。6000 人の子供たちを招待しての平和教育。

3つの最先端技術：①「フルコート 3 D ビジョン(3 D V)」②「フリービューポイントビジョン(自由視点映像、F V)」(スタンドに設置された 200 台の高性能カメラが選手の動きを追い、例えばゴールキーパー選手の目線などでの新たな観戦を可能にする)③「F I F A ハイパーアプリケーション(HA)」(多機能の情報端末で、F V 視聴のほか、入場券や電子マネー、さらには 50 カ国語対応の音声自動翻訳機能が備わる)

○101202 産経「日本 あくまで正攻法」

「2002 年の日韓大会から 22 年までは 20 年の間隔はあるが、現実的には、わずか 8 年での立候補」「施設面では、専用競技場も少なく、首都・東京に開幕戦、決勝を開催できる 8 万人規模のスタジアムもない。F I F A の評価報告書では、欧州との時差の関係で、韓国、豪州ともにテレビ放映権料減少の可能性も指摘された」「今回の招致をめぐる、投票権を持つ 2 人の F I F A 理事が買収疑惑で活動停止になったように、W杯に絡む金品授受の噂は絶えない」
「魑魅魍魎(ちみもうりょう)の世界」

*2018 年開催立候補は、イングランド、オランダ・ベルギー(共催)、スペイン・ポルトガル(共催)、ロシア

*日本の開催候補会場 (★は 2002 年大会でも使用。☆は新設)：★札幌ドーム★カシマスタジアム★埼玉スタジアム、国立競技場、味の素スタジアム(東京都)、★日産スタジアム(横浜市)★東北電力ビッグスワンスタジアム(新潟県)★エコパスタジアム(静岡県)、豊田スタジアム、★長居陸上競技場☆大阪エコ・スタジアム(仮称)、ユニバー記念競技場(神戸市)、★大分銀行ドーム(大分市)

「…オセアニア・サッカー連盟(O F C)のテマリー F I F A 副会長(タヒチ)が W杯開催地決定に絡む買収疑惑で活動停止処分となり、理事会での投票から除外されたため、O F C は代替の臨時理事の参加を求めている。だが同副会長が処分に対し異議申し立ての手続きに入り、F I F A の規定で代替理事の選任が認められなくなった。▽これで両 W杯開催地の選定は、2 日に実施する 22 人の理事による投票で決まることが確定した」

*F I F A理事会メンバーの国籍: 会長→スイス。副会長→アルゼンチン、カメルーン、韓国、トリニダード・トバゴ、スペイン、フランス、タヒチ(1年間の活動停止)、イングランド。理事→ベルギー、ブラジル、カタール、トルコ、米国、タイ、パラグアイ、日本、ナイジェリア(3年間の活動停止)、キプロス、コートジボワール、ドイツ、グアテマラ、エジプト、ロシア。

「東欧初開催を掲げるロシアは13会場の新設を打ち出すなど、ソチ五輪招致でも見せた資金力にものを言わせる策で目を引きつけている。成熟したスペイン・ポルトガルは、いち早く南米からの支持を取り付け、水面下で繰り広げるカタールとの共闘作戦も功を奏しているもようだ」

○101204 「W杯 沸き立つ『未踏の地』」

*2018年大会はロシア、22年はカタールで開かれることに決定。「ロシアは東欧で初、カタールは中東初、そしてイスラム圏でも初」

「事前の評価報告書に際だって厳しく書かれたカタールが、22人の理事が参加した投票で1回目から11票という圧倒的な票を得た。落差を埋めた本当の理由は何か。無記名投票ではうかがい知れない」「(*ミニチュア競技場には) スタンドの内側に冷気を送り出す装置があり、座席の足元にある吹き出し口から出てくるしくみだ。▽開発したのはアラップという英国系企業。同社は北京五輪の水泳会場『水立方』など数多くの競技場を手がけた。▽ドーハにあるアルサード競技場では、2年前からこの冷却システムを導入しているそう。今は通常の電力を使っているが、W杯で導入を予定しているのは第2世代のシステム。化石燃料を使わず、太陽光発電で二酸化炭素の排出を抑えるのが売り物だ」

○101204 「日本落選 再挑戦には慎重姿勢」

「22年大会がカタールに決まった今、過去2大会の開催大陸勢を招致候補から除外する現行のルールでは、日本が次に立候補できるのは、はるか先の34年大会となる。▽その24年後の大会にしても強敵が予想される。・・・」 「来年1月にはF I F A理事選」が行われる。

<得票数>

2018年大会	1回目投票	2回目投票
ロシア	9	13
スペイン・ポルトガル	7	7
オランダ・ベルギー	4	2
イングランド	2	

2022年大会	1回目投票	2回目投票	3回目投票	4回目投票
カタール	11	10	11	14
米国	3	5	6	8
韓国	4	5	5	
日本	3	2		
オーストラリア	1			